

31-0958

培養地衣菌抽出物の生物活性

○庄司 真弓¹, 菅原 美貴子¹, 佐々木 裕樹¹, 原 光二郎², 山本 好和²(¹スカイライ
イト・バイオテック,²秋田県大)

【目的】地衣類は菌類（真菌類）と藻類とが共生した生物であり、地衣成分と呼ばれる地衣類特有の化合物群を代謝産物として産出する。地衣成分は植物や菌類とは異なる幅広い生物活性を示すため、その有用性が期待されている。そこで、我々は地衣類から医薬品・化粧品等の開発につながる新規化合物の探索を行うにあたり、培養地衣菌の抽出物を対象に抗酸化作用の生物活性について評価を行った。

【方法】我々が保有する培養地衣類ライブラリより地衣菌を選択し、近年山本らによって確立された方法によって培養を行った。培養後培地及び菌体に分離した後、培地は酢酸エチルで菌体はメタノールにてそれぞれ抽出を行い、抽出物を得た。各抽出物の抗酸化作用の評価はカテキン及びトコフェロールを基準として、DPPH (1,1-diphenyl-2-picrylhydrazyl) ラジカル捕捉活性試験、及び NBT 還元法による SOD (superoxide dismutase) 様活性試験により行った。

【結果】培養地衣菌の44抽出物について、試験したところ高い抗酸化作用を示す抽出物が多数認められた。カテキンよりも高い活性を示す *Haematomma puniceum* の抽出物については、新たな抗酸化物質の発見される可能性が示唆された。また、地衣類の代謝産物より産業上有用な新規生物活性物質が発見される可能性も同時に示唆された。

今後、これら培養地衣菌の抽出物について HPLC データの取得や、その他の生物活性試験について行う予定である。